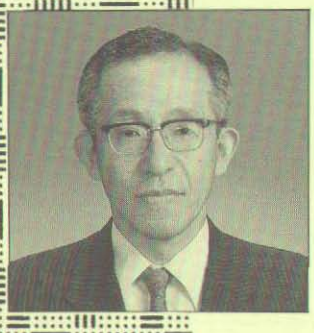

巻頭言

“文明”を維持発展させるために

総務理事　吹抜　敬彦

当学会の総会で末松新会長は「歴史的に見て，文明発展の原動力は技術革新にある．先端技術にかかわる当学会の責任は重い」と述べ，更に最近の若い人の科学への無関心や物理離れを憂い，小中高校生への啓蒙策を提案された．

2年前の画像符号化シンポジウム（PCSJ '90）のパネル討論で，「TV電話機がいつ10万円や5万円を切るか」が話題になり，DRAM等の価格低下カーブを引合いに熱心に議論された．

私はたまりかねて，「何故そう安く，安くというのか．露店でのハイテク電子製品のタタキ売りを見て，何とも思わないのか」と問うた．例えば時計の場合，付属品のベルトだけで数千円はする．ところが，LSI，液晶表示，マイクロモータ，小型電池などを持った多機能ハイテク時計が付くと，一応のベルトを含めて全体で2千円になる（2万円ではない！）．開発した高度技術は，どういう経済効果を持つのだろうか．また，どのようにして，プライドや次なる開発への意欲を維持しておられるのだろうか．

日本一の家電メーカを創った方が，「湯水の如くに製品を！」といわれた．物が欠乏しこれが遙かな願望であった時代には，誠に崇高な目標であった．一方で最近，貿易摩擦が問題になっている．修理代より安くなった結果，使い捨てによるゴミ戦争も引起こした．もっとも一時は「良いものを安く作って何故悪い」との議論があったが，最近は影を潜めた．今年になると“盛田論文”も出た．

現在，本学会に特に関係深い製造業分野では，ギリギリのところで企業を成立させて，コスト低減を図っている場合が多い．VTRテープも作っている某写真フィルム会社の幹部が，「電気メーカが絡むと製品が極端に安くなるので，次の開発努力が…」と嘆いておられた．

「合格偏差値など無意味」との意見は十分承知しているが，これが潜在的受験願望者も含めて若い人の人気度を表していることは，統計学的にも自明である．私の受けた昭和30年の入試では，電子工学科の最低点は医学部のそれより遙かに高かったが，その後は完全に逆転した．医師の場合，かなりの年齢まで経済的社会的に尊厳が保てる．若い人の願望が集まるのは当然であろう．

本学会に関連した学科では，卒業生の多くが電気製造業（広義）に就職する．ここでは，二宮尊徳も驚くほど時短が重要課題になっているが，それ以外の重要な条件はそれほどでもない．

製造業に携わる者は，“文明”の担い手としての誇りと自覚を持ち，一社的観点もさることながら，国として，更に，長期を見た人類的な立場から，先端技術の維持発展とこのための優秀な人材確保の方策を考える努力が望まれよう．